



2021年11月8日

各位

「公益信託ENEOS水素基金」2021年度 助成対象者の決定について
 ～水素エネルギーによるサステナブルな社会の実現に向けて～

当社（社長：大田 勝幸）は、当社が設立した「公益信託ENEOS水素基金（運営委員長：北川進 京都大学高等研究院 特別教授、受託者：三井住友信託銀行）」の2021年度助成対象者を次の5名に決定したことをお知らせいたします。

(敬称略)

加藤 正史 (かとう まさし)	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 准教授
小島 隆彦 (こじま たかひこ)	筑波大学 数理物質系 化学域 教授
小川 祐平 (おがわ ゆうへい)	九州大学 大学院 工学研究院 機械工学部門 水素貯蔵システム研究室 助教
三ツ沼 治信 (みつぬま はるのぶ)	東京大学 大学院 薬学系研究科 特任助教
鈴木 康介 (すずき こうすけ)	東京大学 大学院 工学系研究科 応用化学専攻 准教授

当社は、脱炭素に向けた水素社会の早期実現に貢献することを目的に、2006年3月に本基金を創設しました。本基金は、水素供給に関する研究助成に特化した公益信託としては我が国初のものであり、水素供給に関する「独創的かつ先導的な基礎研究」に対し、年間総額5千万円（1件あたりの上限1千万円）の研究助成金を約30年間にわたり安定的に交付することが可能な規模を有しています。

本年度は、45件の応募の中から、本基金の運営委員会による厳正な審査を経て、上記助成対象者を決定しました。また、研究助成金贈呈式は11月24日（水）にオンラインにて開催いたします。

当社は、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標9「産業と技術革新の基礎をつくろう」および目標13「気候変動に具体的な対策を」の達成につながる本基金を通じて、水素社会の実現に貢献してまいります。

以上

<添付資料>

1. 2021年度 助成対象者および研究テーマ
2. 「公益信託ENEOS水素基金」の概要

2021年度 助成対象者および研究テーマ

第1分野<水素製造技術>

かとう まさし
加藤 正史 (名古屋工業大学 大学院 工学研究科 准教授)

“高品質 3C-SiC 自立結晶による高効率太陽光—水素エネルギー—変換技術の開発 “

こじま たかひこ
小島 隆彦 (筑波大学 数理物質系 化学域 教授)

“犠牲試薬を必要としない光触媒的水素発生系の構築 “

第2分野<水素貯蔵・輸送に関する技術>

おがわ ゆうへい
小川 祐平 (九州大学 大学院 工学研究院 機械工学部門 水素貯蔵システム研究室 助教)

“高圧水素ガスインフラ用構造材料のパラダイムシフト～水素脆化から水素誘起高強度・高延性化への転換～ “

みつぬま はるのぶ
三ツ沼 治信 (東京大学 大学院 薬学系研究科 特任助教)

“温和な条件でのメチルシクロヘキサンからの水素放出技術の開発 “

第3分野<CO₂固定化・削減技術>

すずき こうすけ
鈴木 康介 (東京大学 大学院 工学系研究科 応用化学専攻 准教授)

“二酸化炭素の高効率高選択的変換反応に向けた分子状無機電極触媒の開発 “

以 上

「公益信託ENEOS水素基金」の概要

信託目的	地球環境と調和したエネルギーである水素エネルギーの供給に関する基礎研究への助成を行い、もって水素社会実現に貢献することを目的とする
信託財産	15億円
年間助成金額	総額5千万円以内とする（1件あたりの上限は1千万円とする）
助成する研究	水素エネルギーの製造・輸送・貯蔵およびCO ₂ 固定化に関連する技術分野で、独創的かつ先導的な基礎研究を対象とする
助成対象者	大学や公的研究機関等、営利を目的としない国内研究機関に所属し、「助成する研究」に合致する研究を行う者
募集・選考方法	公募とし、当公益信託の運営委員会にて審査する
委託者	ENEOS株式会社
受託者	三井住友信託銀行
主務官庁	経済産業省

＜公益信託について＞

公益信託とは、委託者が、財産を一定の公益目的のために信託銀行（受託者）に拠出し、設定した公益信託（公益信託契約）に従って、信託銀行がその財産を管理・運用し、公益のために役立つ制度であり、奨学金の支給、自然科学・人文科学研究への助成、自然環境保護活動への助成、国際協力・国際交流促進など、様々な金銭給付型の公益事業に活用されている。

なお、公益信託の設定にあたっては、主務官庁の許可が必要となる。

